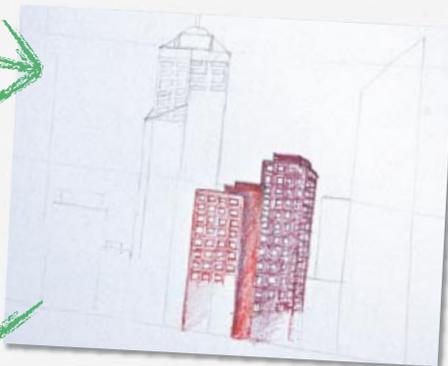


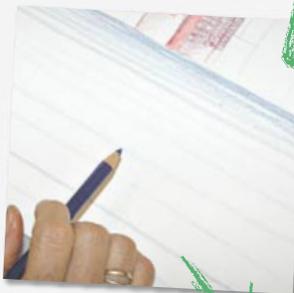
前ページ  
右下より



窓などの要素を鉛筆で描き込んでいきます。斜めに線を入れることで、立体感を付けることができます。



川を描きます。水の流れるように左右に色鉛筆を動かします。遠近感を出すために手前は薄く、奥は濃く塗り、線と線の間隔も手前は広く、奥にいくにつれて狭く描きましょう。



最後に、空を描きます。ポストカードには写っていませんが、動きを出すために雲などを描いてみました。スケッチでは、あるものをそのまま写し出すことも大切ですが、多少のアレンジにより絵にまとまりをもたせることもできます。



完成です。今回は、サウス・パースからみた夕暮れ時のパースのビル群を描いてみました。

色を付けます。初心者の方は、特に同色系で色を塗るとまとまりのある絵となるでしょう。今回は、夕暮れ時のパースなので赤系色で統一しました。よく観察することが大切ですが、奥の建物になればなるほど暗く、手前の建物との明暗がはっきりしています。それを表現することで、遠近感のある絵となるでしょう。また、色鉛筆は軽く塗れば薄く（明るく）、強く塗れば濃く（暗く）なります。



作：ボナルド一睦子

睦子先生の組み絵作品。同じ風景ですが、手法が変わると雰囲気も全然変わってきます。

睦子先生  
からの  
アドバイス

『Artist's License』という言葉がアートの世界にはありますが、自由に、自分の好きなように表現していい、という意味です。1人1人、持っている感性は違いますし、やってみることが重要で、続けることが経験になります。3日坊主でも、1年でその3日を50回やれば、150日分にもなります。私にとって、(組み絵で)絵を描いている時は自分の世界に入り込め、そんな時間を幸せに感じています」



睦子先生からの  
シンプルテクニック

こんなことに注意すると上手に描ける!

○ 遠目に見る ○ 集中して描いていると、全体像を見落としてしまう場合があります。時々手を止め、遠目に全体のバランスをチェックしましょう。

○ 何を描く ○ 風景と一言でいっても、自分を取り巻く全てが風景となります。描くものを決める時は、象徴的なものや自分が好きなものを取り込むようにしましょう。

○ 試し塗り ○ 鉛筆の芯やコーティングの色でその色鉛筆の色を判断せず、他の紙に試し塗りをして、色の確認をするようにしましょう。

○ 止め際 ○ 入り込んでしまうと“もっと”と思ってしまう。手を加えれば加えるほど、思っていたものと違ったものになってしまう場合があります。やり過ぎず、止め際を意識しましょう。